



インタビュー

株式会社シンク・オブ・アザーズ
代表取締役 難波 裕扶子さん



自分の軸を持ち、相手をリスペクトしながら考え続けてほしい

難波さんは、地域に根ざした教育・発信・共創活動の実践が評価され 2025 年 5 月、消費者支援功労者表彰（内閣府特命担当大臣表彰）を本県初受賞。SDGs を踏まえ、企業や自治体、教育機関と連携して幅広く啓発活動に取り組んでおられます。また宮崎県ユニセフ協会の活動も支えていただいています。

「哲学書を読んでいるような気がしました」と編集長の言葉に「そうなんです。子どもの哲学なんです。答えはなく・・・」と難波さん。

絵本「知らないことの子カラ」～そして自分らしく生きる～（出版社：三恵社）を出版された難波さんに、絵本に込められた思いや出前授業・啓発活動の中で感じられる思い・子どもたちへ期待することを伺いました。

啓発活動での手ごたえは？

SDGs に取り組むことで、社会の変化を起こす小さなきっかけをつくれたと感じています。

たとえば、遠く離れた地域や国で起きている出来事だけでなく、過去や未来にも思いを巡らせられる、見えないことに気づける“土壌”を育てることができたと感じています。また、自分たちの身近にある文化や地域のよさ・魅力を再発見し、そこから新たな社会変化を生み出す可能性も見えてきています。特に若者の意識は高く、一人で奮闘しながらも主体的に取り組む姿が多く見られます。

活動を通して感じたことは？

SDGs について、子どもたちは 9 割近くが自分の言葉で答えられるようになってきましたが、大人は「言葉は知っていても中身や本質を理解していない」「言っているけれど実行していない」といった知識と行動のギャップが、ここ数年で如実に表れてきたと感じています。目標を掲げること自体は、意義ある一歩です。しかし本当に重要なのは、挑戦し、その達成度を確かめ、本来の意味に真摯に向き合うことです。数値目標を掲げることも大切ですが、掲げただけで終わったり、流行や形式に偏ったりすれば、本質から逸れてしまう危うさを感じています。

子どもたちへ期待することは？

探究学習で子どもたちの発表を聞いていると、「大人社会の期待に応えなければ」「望まれる発表に整えなければ」という気持ちが働いているように感じてしまうことがあります。けれど本当に大切なのは、意見が対立したときに「他者は自分とは違う」と理解し、その違いを尊重しながら合意形成していくことです。そこには、社会を変える力があります。だからこそ、子どもたちが“期待に応えなくてもいい”と思える寛容な社会を、大人がつくる必要があると強く思っています。

啓発活動から生れたこの絵本に込められた思いは？

出前授業の経験を通して、絵本だからこそ思いがギャップなく、中立に届く確かさを感じました。シンプルな言葉に濃さを託し、行間から多くの想像がひろがるようにしています。この絵本は心や感情をほぐし、ふかふかの土に戻すもの。そこへ経験や学びが水や栄養のように沁み込んでいきます。「知らない⇔知っている」という対立ではなく、「知ることで選択肢が増える」「考えることで自分の軸が育つ」——そんな願いを込めました。

「知らないことの子カラ」
～そして、自分らしく生きる～



文 難波 裕扶子

コラム



宮崎県ユニセフ協会
評議員 浦元 孝昭
(株)コーポレーション
クリエイティブ会長

宮崎県ユニセフ協会を思う

2002 年の設立以来 23 年間、上原副会長・前田副会長はじめ、多くの地元有志の方々に、県協会の活動に関わっていただいていることに、心より敬意と感謝を申し上げます。また、現池ノ上会長が就任され、大学生を中心とするひなたカレッジが、イベント企画や募金活動など、若い力を生かした活動をしていることも、希望に満ち溢れている現状だと私は感じております。しかし残念なことに理事・評議員と事務局・運営委員の方々が顔を合わせるのには総会の時だけです。日々ご苦労の中、活動されているメンバーとの交流の機会が、年に 1 度しかないことに物足りなさを感じております。また、長引く紛争や、気候変動による自然災害も増える中、本来の活動に力を注ぐためにも、一番必須な資金の確保が大きな課題です。世界の状況を見据えつつ、宮崎でのユニセフ活動を充実させていくうえでも、会社・個人のサポートメンバーを増やしていくことが重要な課題だと思います。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

宮崎県ユニセフ協会学生ボランティアグループひなたカレッジのメンバーが今回、日本ユニセフ協会の中にあるユニセフハウスを見学してきました。彼らの思いをご一読ください。



ユニセフハウスには、世界で起こっている子どもたちの現状が動画や写真、展示によって紹介されていました。

子どもたちがまるでモノやおもちゃのように扱われてしまっている現実があることに驚きました。私は将来教育関係の仕事につきたいと考え、いま大学で学んでいますが、今回のユニセフハウスでの体験は私の教育への思いをさらに強くしてくれました。 南九州大学 3 年 竹尾光織

今回私のテーマは「恵まれた地域で暮らす私の、当たり前だと勘違いしていることに気付く」ということです。印象に残ったことの 1 つが、戦うか死ぬかの 2 択を迫られ、兵士として戦うことを選択すれば「人の命を撃つ」という行為をせざる負えない子どもの存在でした。又 1 日に 8 時間水汲みに時間を費やす子どもが存在することを知り、この失われた時間を取り戻してあげるべきだと強く思いました。ユニセフ活動を約 2 年間行ってきましたが、子どもたちの現状を五感を通じて学ぶ経験をし、この感情や学びを自分のものにする良い機会となりました。 宮崎大学 3 年 押川眞子



5 歳までになくなる子どもが 7 秒に 1 人いるという事実を聞いたとき、強い衝撃を受けました。私自身 5 歳の妹がいるので胸が締め付けられるような思いでした。私は教育に携わる立場を目指していますが、教育を受ける以前に命が守られず、学ぶ場すら与えられない子どもがいるという事実を知って、自分にできることは何かを真剣に考えさせられました。教育を目指すものとして目の前の子どもたちを大切にすだけでなく、広い視野を持って世界の子どもの幸せについて考え続けたいと思いました。 南九州大学 3 年 持原水樺

子どもたちを守る活動の中でも医療分野に注目した。慢性的な栄養不良状態にある子どもたちが世界で約 1 億 4920 万人という数値が、その深刻さを具体的に示していた。栄養補助食やワクチンの冷蔵輸送装置を見学し、基礎的な医療と栄養が子どもの命と発達に不可欠であると理解した。将来言語聴覚士を目指す自分にとっても、子どもの成長や生活を支える医療の基盤は重要であり、専門性を社会に生かす視点を持ち続けたい。

九州医療科学大学 2 年 猪野陽菜

様々な問題に直面している世界中の子どもたちのことや子どもの権利条約について知ることができました。特に世界の「7 人の子どもたち」の 1 人であるサジャが話していた「勉強をしなかったら夢をかなえることも、平和にすることもできない」という言葉はとても共感できました。今回学んだことをこれからのユニセフ活動に生かしていきたいです。

宮崎産業経営大学 4 年 河野樹



今回の見学を通して教育を受けることの意義と子どもの未来について考えた。学校に通って教育を受けることができる環境こそが、子どもたちに世界の多くのことを知ってもらい、様々な刺激や影響を与え、自分の好きなことや叶えたい夢を見つけることにつながっていくのではないかと気付かされた。教育こそが、人々の価値観や考え方を根底から変えていき、親から子どもへと受け継がれていくべきものではないかと感じた。 宮崎公立大学 3 年 中村雪乃

※ひなたカレッジの活動は宮崎県ユニセフ協会サポート会員様によって支えられています

現在ご加入いただいている **宮崎県ユニセフ協会サポート会員** 様

(株)坂下組	コマツ宮崎(株)	宮崎ガス(株)	(株)東産業	(株)テレビ宮崎	(株)松岡林産	(株)宮崎太陽銀行
(株)コーポレーション・クリエイト	(株)丸商建設	(株)太信鉄源	昭和興産(株)	(株)みゆき自動車	(株)宮崎放送	(敬称略)

宮崎県ユニセフ協会サポート会員募集中！

企業・団体が対象 1 口 10,000 円 (3 口以上)

会費によって、宮崎県ユニセフ協会の絵画展開催、若者ボランティア育成事業などの活動をご支援いただいております。

ユニセフ出前授業・学習会

2025年7月3日(木)

高鍋町立高鍋西中学校 2年生 84名



高鍋町は、今年度内閣府が推進する「SDGs 未来都市」に選定されました。また先生方はじめ、生徒さんは地域ぐるみで積極的に募金活動に取り組んでくださいました。高鍋町での出前授業は3年目です。グループで積極的に意見交換が行われ、意欲的に発表してくれました。日頃から世界で起こっている問題を知り、しっかり自分の意見を持っている生徒さんが多い、と感じました。

【テーマ】

ユニセフと世界の子どもたち 持続可能な世界を目指して

2025年7月11日(金)

都城市立祝吉中学校 3年生 170名



一クラスで授業を、他4クラスは、各教室でリモート受講という、初めての授業形態で実施しました。授業後、たくさんの感想と3年2組の学級通信が届きました。

SDGs講演会の様子紹介



9月以降の予定

9/4 宮崎市立赤江中学校

9/11・9/25 宮崎市立住吉中学校

10/8 宮崎大学教育学部小中一貫教育コースで出前授業を行います

募金活動

ユニセフ募金活動

2025年3月16日(日) Tテラス カリーノ前
ボーイスカウト宮崎第4団・第5団・第15団の皆さん

募金額合計 34,101円



募金してくださった皆様、ボランティアとして参加して下さった皆様、ご協力ありがとうございました。

ミャンマー地震緊急募金活動

2025年4月20日(日) アートセンター前・一番街
県防災センター前

募金額合計 36,915円



ユニセフは、世界の子どもたちの権利が守られ、尊厳のある生活が送れるよう、活動を展開しています。

宮崎県ユニセフ協会は、9月28日(日)12時~16時
宮交シティー3階(エスカレーター横)で募金活動を行います。
ユニセフ募金にご協力よろしくお願いします!

ゆうちょ銀行

振替口座: 00190-5-31000

口座名義: 公益財団法人日本ユニセフ協会

※通信欄に K1-450 と明記ください

※送金手数料が免除されます

ユニセフパネル展

日本ユニセフ協会は昨年9月から、文部科学省 こども家庭庁 NHK エデュケーショナルとともに「子どもの権利プロジェクト」を推進しています。宮崎県ユニセフ協会も「子どもの権利」やユニセフの活動の普及を図るために、パネル展を5会場で6回開催しました。会場を提供してくださり、ありがとうございました。



宮崎市立図書館 3月・7月



九州医療科学大学



宮崎太陽銀行本店
日向支店



宮崎銀行本店

活動の誌

2025 年

- 2月 20 日 (木) 宮崎県ユニセフ協会 理事・評議員会 (市民プラザ大会議室)
- 2月 23 日 (日) ユニセフ出前授業 ボーイスカウト第 17 団 ロバートベーデンボウエル祭にて
- 3月 16 日 (日) ユニセフ募金活動 (T テラス：高千穂通りカリノ前)
- 3月 19 日 (水) ～31 日 (月) ユニセフパネル展「子どもの権利ってなあに？7 人の子どもたちと出会う」
(宮崎市立図書館)
- 4月 2 日 (水) ～18 日 (金) ユニセフパネル展「ユニセフの活動とひなたカレッジの紹介」(九州医療科学大学)
- 4月 20 日 (日) ミャンマー地震緊急募金活動 (宮崎アートセンター前、一番街、防災センター前)
- 4月 21 日 (月) ～5月 2 日 (金) ユニセフパネル展「潮とともに生きる～アグネス大使とみたキリバス、
気候変動の現状～」(宮崎太陽銀行本店ロビー)
- 5月 7 日 (水) ～16 日 (金) ユニセフパネル展「潮とともに生きる～アグネス大使とみたキリバス、
気候変動の現状～」(宮崎太陽銀行日向支店)
- 5月 25 日 (日) 防災の日フェスタ (イオンモール宮崎 ひなたテラス、南側駐車場)
- 6月 16 日 (月) ～27 日 (金) ユニセフパネル展「7 人の子どもたちと出会う」(宮崎銀行本店ロビー)
- 6月 27 日 (金) 学習講師研修会 2025 参加 (ユニセフハウス)
- 7月 3 日 (木) ユニセフ出前授業 「SDGs について」 (高鍋西中学校)
- 7月 11 日 (金) ユニセフ出前授業 「SDGs について」 (祝吉中学校)
- 7月 16 日 (水) ～28 日 (金) ユニセフパネル展「長谷部誠大使口ヒンギャ難民キャンプ」(宮崎市立図書館)
- 7月 27 日 (日) 子ども食堂勉強会 (ひなたカレッジ) (和知川原公民館)
- 8月 27 日 (水) ひなたカレッジ ユニセフハウス訪問 (日本ユニセフ協会)

毎月第 3 木曜日
毎月 1 回

運営委員会
ひなたカレッジ ミーティング

【副会長 事務局スタッフ 運営委員】
【ひなたカレッジメンバー 事務局スタッフ】

募金協力者様

(2025 年 3 月 1 日～2025 年 8 月 31 日)

生活協同組合コープみやざき

布の樹

宮崎市郡医師会病院

宮崎キネマ館

(敬称略)

※個人の皆さま方からたくさんのご支援、ご協力を頂いております

SDGs

ーロメモ

SDGs 目標 16 平和と公正をすべての人に

16 平和と公正を
すべての人に



世界のどこかで、4 分に 1 人、子どもが
暴力によって亡くなっています。

“平和でだれもが受け入れられ、すべての人が法や制度で守られる社会をつくろう”



(公財) 日本ユニセフ協会 賛助会員

◎賛助会員は税額控除の対象になります

賛助会員は、世界の子どもたちのために様々な活動を行っている (公財) 日本ユニセフ協会の国内における活動と 27 の地域組織の活動を会費によってご支援いただくものです。会員になると、会員証を発行し、機関紙「ユニセフニュース」(年 4 回発行) をお届けします。

一般賛助会員・・・個人ならどなたでも
年間一口 5,000 円
学生賛助会員・・・18 歳以上の学生の方
年間一口 2,000 円
団体賛助会員・・・団体・法人・企業
年間一口 100,000 円

現在ご加入いただいている宮崎県内の日本ユニセフ協会団体賛助会員様

(敬称略)

(株) コーポレーション・クリエイト

(株) 宮崎放送

西部生コン (株)

(株) NPK

(株) 丸商建設

※当協会には、活動を支えて頂く独自の 宮崎県ユニセフ協会サポート会員制度 があります

(P.2 参照)

編集後記

戦後 80 年の今年、宮崎キネマ館では戦争作品を例年の倍、上映したそうです。喜田支配人の伝えていく側の使命感を感じると同時に、ユニセフへの長年のご理解とご協力に感謝いたします。また、難波さまからは「伝えたいことをどのように届けていけばよいのか」私たちが伝える活動をしていくうえで、大切にしなければならぬことをご教示いただきました。いろいろな方のサポートに感謝いたします。事務局 合志

宮崎県ユニセフ協会

Miyazaki Association for UNICEF

宮崎市鶴島 2-9-6 みやざき NPO ハウス 202

Tel.0985-31-3808 e-mail:info@unicef-miyazaki.jp

